

様式 C-7-1

平成24年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号

6	4	3	0	2
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 国際日本文化研究センター
3. 研究種目名 基盤研究(A) 4. 研究期間 平成22年度～平成24年度
5. 課題番号

2	2	2	4	2	0	0	8
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 「東洋」的価値観の許容臨界：「異質」な思想・藝術造形の国際的受容と拒絶
7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
40203195	イナガ 稲賀 繁美	研究部	教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
70329978	リ 李 ケンジ 建志	関西学院大学・社会学部	教授
50324728	フジハラ 藤原 サダオ 貞朗	茨城大学・人文学部	教授
80334613	ハシモト 橋本 ヨリミツ 順光	大阪大学大学院・文学研究科	准教授
30340524	ハヤシ 林 ヨウコ 洋子	京都造形芸術大学・芸術学部	准教授
10316234	テレングト デレングト アイトル アイトル	北海学園大学・人文学部	教授

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

平成24年度には、研究報告論文集として『東洋意識：夢想と現実のあいだ』（ミネルヴァ書房、本文540頁＋添付資料）を刊行した。本論集は具体的には5部構成からなり、1. 東洋人の自意識、2. 東西価値観の相克、3. 西欧の学術としての東洋学、4. 東洋美学の桎梏、5. 経営事業としての東洋の5部からなる。これは交付申請書に列挙した5点の課題にそれぞれ対応するものである。意義としては、従来、専門とされる対象領域分野ごとの研究史にとどまっていた知見を、東洋人の西欧体験、西欧側の東洋認識、さらに両者の衝突と相克、とりわけ感性的な価値観における対立の克服への努力、さらには植民地政策下での事業とのかかわりという観点にわたり、総合的、国際的、学際的に探求し、近代における東西の相互認識の進展とそこに孕まれる問題を浮き彫りにした。これは、従来の研究が、西欧の学術精度に沿った分野分類に添って東洋を腑分けし、あくまで西洋側の理論や認識装置によって東洋を分析してきた限界を露呈させる意義を含む。と同時に、東アジアに限定しても、日本、韓国、中国とそれぞれ独立して西欧の価値観と対峙してきた経緯に横断的な反省を加え、日本とベトナムをも含む近隣諸国および西欧の関係を三角測量の視点によって立体的に解明した点に意義と重要性とを認めうる。

交付申請書に記載した「研究の目的」は、本論文集および、研究分担者、研究協力者によって刊行された関連する業績によって、着実に達成された。また「研究実施計画書」との関連に関する詳細は、本研究報告論文の序文に、方法論的な観点からその理由を述べ、また巻末で各々の業績に関してそれらの相互連関を踏まえた要約を記載している。

10. キーワード

- | | | | |
|--------------|---------|-----------|-----|
| (1) オリエンタリズム | (2) 東洋学 | (3) 東西交渉史 | (4) |
| (5) | (6) | (7) | (8) |

11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。
 <区分>①当初の計画以上に進展している。 ②おおむね順調に進展している。 ③やや遅れている。 ④遅れている。

(区分)
(理由) 本研究課題は平成 24 年度が最終年度のため記入しない。

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究課題は平成 24 年度が最終年度のため記入しない。

13. 研究発表（平成 24 年度の研究成果）

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

〔雑誌論文〕 計（1）件 うち査読付論文 計（0）件

著者名	論文標題				
稲賀繁美	『バッタモン』の再来, Battamon Returns: 翻訳の政治学と全球化への抵抗(2)				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
『あいだ』	無	199号(連載第92回)	2 0 1 3	19-26頁	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
稲賀繁美	「日本の美術表現にみる羊」『文化で読む十二支神物語 羊』				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
ソウル・図書出版 ヨルリムウオン	有		2 0 1 3	pp.98 - 109	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
稲賀繁美	日本の美術表現にみる蛇：祝您蛇年快樂				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
『あいだ』	なし	200号(連載第93回)	2 0 1 3	pp.17 - 23	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
稲賀繁美	観光案内に載らないパリ案内 (前) 日曜日と月曜日、たった2日で廻れる、知られざる街中の秘境				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
『あいだ』	なし	201号 (連載第94回)	2 0 1 3	pp.19 - 23	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
稲賀繁美	Kegon/Huayan 華嚴 View and Contemporary East Asian Art: A Methodological Proposal				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
The National Museum of Modern Art, Kyoto	あり	Cross Sections Vol.5	2 0 1 3	pp.2-25.	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
稲賀繁美	韓国に比較文学の「辺境」を踏査する一国際比較文学会 第十九回ソウル大会 (Aug.15-21,2010) の報告と反省				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
『阪大比較文学』	あり	第7号	2 0 1 3	pp.164 - 173	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
Philippe Bonnin, Nishida Masatugu et Inaga Shigemi eds.	La Vie transitoire des formes. Un moment qui prend de la patine: une petite réflexion sur les temps de la spatialité japonaise				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
国際研究集会報告書 第43集	あり		2 0 1 3	pp.111-121.	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
李建志	韓国映画の中の北朝鮮—北朝鮮表象から見えてくるもの				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
地域研究, 京都大学地域研究総合情報センター, 昭和堂	無	13巻2号	2 0 1 3	238 -243頁	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
藤原 貞朗	展覧会評 シャルロット・ペリアンと日本				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
ジャポニスム研究	無	32	2 0 1 2	49, 55	
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題						
藤原 貞朗	〈ホンモノのゴッホ〉は日本に何をもたらしたのか?～昭和33年のフィンセント・ファン・ゴッホ展をめぐって						
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁		
茨城大学人文学部紀要	無	14	2	0	1	3	1、18
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)							

著者名	論文標題						
橋本順光	2011年度第五回例会報告						
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁		
ジャポニスム研究	有	32	2	0	1	2	31-36
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)							

著者名	論文標題						
橋本順光	書評・松村昌家『文豪たちの情と性へのまなざし』『ヴィクトリア朝文化の世代風景』						
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁		
比較文学	無	55	2	0	1	3	215-220
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)							

著者名	論文標題						
テレント・アイトル	東洋における修辞学の変遷——日中の修辞学の比較を兼ねて						
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁		
『人文論集』北海学園大学	無	54	2	0	1	3	61-82
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)							

【学会発表】計 (7) 件 うち招待講演 計 (0) 件

稲賀繁美	概念の器と、その翻訳について；夏目漱石『夢十夜』の運慶とミケランジェロの詩から；考察にむけての手引きとして	
学会等名	発表年月日	発表場所
国際シンポジウム「東アジアにおける知的交流—キイ・コンセプトの再考察（東亞近代知識轉型中的關鍵概念詞）」	2013年3月14日	台北・アカデミア・シニカ
発表者名	発表標題	
李建志	ピラミッド高しといえども...—平壤高等普通学校時代の金史良	
学会等名	発表年月日	発表場所
国際シンポジウム「1930年代東アジア文化交流の研究」	2012年10月13日	大手前大学交流文化研究所
発表者名	発表標題	
李建志	日本のなかのパラオ—帰還者たちの開拓村	
学会等名	発表年月日	発表場所
シンポジウム「二世—戦後において引揚者、復員者、在日朝鮮人の子供達はなにを聞き、なにを引き継いだのか—」	2013年3月19日	関西学院大学先端社会研究所
発表者名	発表標題	
林 洋子	両大戦間パリの挿絵本に見る日本—藤田嗣治を中心に	
学会等名	発表年月日	発表場所
シンポジウム「両大戦間パリの挿絵本文化をめぐって」	2012年10月14日	北海道立近代美術館・講堂
発表者名	発表標題	
戦 暁梅	旅の体験がかきたてる美と征服の二重幻影—満洲民藝蒐集の旅再考—	
学会等名	発表年月日	発表場所
東アジアの文化交流における旅の表象—中日国交正常化40周年記念国際シンポジウム—	2012年7月28日	中国清華大学
発表者名	発表標題	
戦 暁梅	渡邊晨畝と日満聯合美術展覧会	
学会等名	発表年月日	発表場所
1930年代東アジア文化交流の研究シンポジウム	2012年10月13日	大手前大学
発表者名	発表標題	
戦 暁梅	「コロギの鳴き声」と「多彩な沃野」に託されたもの—満洲民藝調査展覧会再考—	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本比較文学会第50回東京大会	2012年10月20日	日本大学文理学部
発表者名	発表標題	
テレント・タイトル	日中における修辞学の初期の受容について	
学会等名	発表年月日	発表場所
東アジア文化交渉学会	2012年5月12日	韓国高麗大学
発表者名	発表標題	
テレント・タイトル	修辞学在東方的變遷—兼日中修辞学比較（中国語で発表）	
学会等名	発表年月日	発表場所
世界中国語修辞学学会第三回年会	2012年10月27日	韓国 仁川大学
発表者名	発表標題	
テレント・タイトル	東洋における修辞学の變遷—日中修辞学の比較を兼ねて	
学会等名	発表年月日	発表場所
国際日本文化研究センター共同研究会（稲賀班・第3回）	2013年1月26日	京都日本文化研究センター

〔図書〕 計 (0) 件

著者名	出版社		
書名	発行年	総ページ数	

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計 () 件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計 () 件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

<p>稲賀繁美 : http://www.nichibun.ac.jp/~aurora/inaga/index.php?2010-2013%20Nichibunken%20IRCJS</p> <p>テレングト・アイトル : http://human.hgu.jp/publication.html</p>
